

『就実教育実践研究』第14巻 抜刷
就実教育実践研究センター 2021年3月31日 発行

オーストリアシュタイアーマルク州
親子センターにおける親支援
— 親の成長を促すElternbildung親教育に着目して —

**Parental Support in Parent Child Center in Styria, Austria:
Focusing on Parental Education, Elternbildung, for Parental Development**

蘆田智絵・村田恵子・赤迫康代

オーストリアシュタイアーマルク州 親子センターにおける親支援

蘆田智絵（初等教育学科）、村田恵子（初等教育学科）、
赤迫康代（NPO法人子ども達の環境を考える ひこうせん）

Parental Support in Parent Child Center in Styria, Austria : Focusing on Parental Education, Elternbildung, for Parental Development

Chie ASHIDA (Department of Education)

Keiko MURATA (Department of Education)

and Yasuyo AKASAKO

(Specified Nonprofit Corporation Kodomotachi no Kankyo wo Kangaeru HIKOUSEN)

抄録

本研究では、オーストリアシュタイアーマルク州の親子センターでの親教育プログラムの取り組みを調査した。その結果、親教育プログラムの3つの構成と、親教育の理念に基づいた親支援の実践が明らかになった。親教育プログラムは、①ノンプログラム②出会いの場や遊びを中心とした「敷居の低い」プログラム③子育てに関するテーマについて学ぶ親教育としてのプログラムの3つから構成される。①や②によって親子センターが親にとって身近な場になり、③の親教育プログラムに親が参加しやすくなる。親子センターのスタッフは、家族や友達のように接し、親の子育てのモデルとなることを意識している。③の親教育プログラムでは、親が話し合いを通して子育てについて学びを深める。さらに、親教育プログラムを実施する親教育者の養成が行われており、専門性の高い親支援の質が保たれている。どの親子センターにおいても、親教育は「親が自身の力に気づき、親を勇気付けるものである」という視点に貫かれていた。今後の課題は、親教育プログラムの具体的な実践方法と、親教育者の養成の内容と方法について明らかにすることである。

キーワード：親教育、オーストリア、親子センター、親支援、乳幼児

I 本研究の目的と背景

オーストリアでは1989年に体罰禁止に関する法律が制定された。この法律によって、親は、子どものしつけにおいて、身体的にも精神的にも苦痛を伴うものはあってはならないということが明確に規定され、子どもを暴力から守るための法整備が行われてきた¹⁾。同じ頃に、親と子どもの居場所づくりのため、子育て中の親が中心となって親子センター Eltern-Kind Zentrumが設立されはじめた²⁾。親子センターは、公益民間団体Vereinであり、

日本ではNPO法人のような地域団体である。

親子センターは、親が子どもと一緒に遊んだり他の親と交流したりすることができる場所として設立された。ここでは、親子の出会いの場としてだけではなく、親が子育てについて学ぶ機会としてのプログラムも充実している。このような親が子育てについて学ぶ機会として、オーストリアでは親教育Elternbildung³⁾が実施されている。親教育を実施する親子センター等の団体に対し、オーストリア政府は2000年1月から親教育プログラムへの助成を行っている⁴⁾。現在では、親子センターをはじめ様々な施設において、妊娠中から思春期までの子どもを育てる親の支援として多様な親教育プログラムが実施されている。オーストリアの親子センターにおける親教育プログラムは、決められたプログラム内容のパッケージが存在するのではなく、それぞれの親子センターが子育てに関係するテーマを独自に選び、そのテーマに適した専門家をファシリテーターという立場で招聘し、親が学ぶ機会を提供するものである。

オーストリア政府による親教育の定義には、「暴力の無い子育てを明示すること」、そして、子育ての方法を親に一方的に教示するのではなく、「親を尊重し高く評価しながら伝えていく」ということが重要な原則の一つとして明示されている⁵⁾。このように、オーストリアで実施されている親教育は、虐待などの大きな問題が起こることを予防するための親支援としての存在意義を持つ。

そこで本研究では、オーストリアの親子センターでどのような親教育プログラムが実施されているのかを明らかにし、親支援のあり方について示唆を得ることを目的とする。そのため、現地訪問とインタビューの機会を得ることができたオーストリアシュタイアーマルク州⁶⁾の3つの親子センターでの親教育プログラムの実践例を検討する。

II 研究の方法

オーストリアシュタイアーマルク州には、州の親教育ネットワークZWEI UND MEHRに登録されている親子センターが10か所ある⁷⁾。そのうち、本研究では、グラーツ親子センター、グライズドルフ親子センター、南親子センターを訪問し、親教育プログラム責任者にインタビューを行った。この3つの親子センターは、親教育を提供する機関としてオーストリア政府の家族青少年省からも認定を受けている。グラーツ親子センターは設立30年以上、グライズドルフ親子センターは設立25年以上とシュタイアーマルク州のなかでも経歴が長い親子センターである。一方で南親子センターは設立13年以上と比較的新しい親子センターである。訪問時期は2017年9月であった。

III 親子センターの概要

各親子センターの概要について、2017年9月時点の各親子センターのプログラム冊子と代表者へのインタビュー内容より述べる。

1. グラーツ親子センター Eltern-Kind-Zentrum Graz

1988年にグラーツで初めて設立されたのがグラーツ親子センターである。現在、親子センターのスタッフは5名で、代表者、広報担当、会計担当、事務担当を分担している。親子センターが設立された背景として、一度も赤ちゃんをみたことがないまま親になった、夫の仕事でグラーツに来た母親は近くに知り合いがおらず孤立して子育てしている、核家族で祖父母と一緒に暮らしていない、あるいは祖父母もまだ働いているなど、親同士のネットワークが必要とされる状況がある。

最初はとても小さいグループで、部屋が一つの小さな場所から始めた。初めは妊娠や出産準備に関係する内容だけであったが、次第にプログラムの内容や数を増やしてきた。現在は妊娠中の体操やヨガ、産後のベビーマッサージ、赤ちゃんと子どものマッサージなど、子どもが生まれてから思春期になるまで幅広い年齢の子どもの親が参加できるようになってきた。10年前は、ほとんどのお母さんたちは出産後3年までは仕事を休み家にいたが、今は出産後1年で仕事に復帰する人が多い。そのため以前は1～3歳の子ども向けのプログラムが多かったが、今は0～1歳の子ども向けのプログラムが多い。

2017年時点での開設日時は、火曜と木曜の9：00-17：00、月曜、水曜、金曜の9：00-12：00で、夏季休暇中は月曜、水曜、金曜の9：00-12：00である。この時間は事務所の開設時間で、この時間以外にも親子センターでのプログラムは実施されている。

2. グライズドルフ親子センター Eltern-Kind-Zentrum Gleisdorf

1995年に設立された。現在、親子センターのスタッフは、7名で代表者、広報担当、会計担当、事務担当を分担している。

親子センターが設立された当初は、2グループの出会いの場として活動を始めた。その後、次第に大きくなり、現在では毎週40プログラムが実施されている。10年前からは父親対象のプログラムも実施している。1ヶ月に1度実施される「パパと子どもの朝食」というプログラムは人気がある。10年前は5組だったが、今では30組の父親と子どもが1回に参加する。他にも山登り、キャンプ、遠足なども人気があり、父親にも子どもにも居心地が良いプログラムだと好評である。

2017年時点でのプログラムには、電話がつながる時間は月曜から金曜までの8時～12時までと、月曜と水曜の15時から18時まで、事務所の開設時間は、火曜と金曜の8時から11時までと記載されている。この時間以外にも親子センターでのプログラムは実施されている。

3. 南親子センター Eltern-Kind-Zentrum Süd

2007年に設立され、2020年で13年目になる。代表者の女性は、もともとグラーツに住んでおり親として子どもとグラーツ親子センターに通っていた。その後、現在の南親子センターがある地域に引っ越してきたが、当時そこには親子センターが無かったため、新しく南親子センターを設立した。親子センターのスタッフは7名で代表者、広報担当、会計担

当、事務担当を分担している。事務所の開設時間はプログラムには記載されていない。

IV 親子センターにおける親教育プログラムの構成と実践の概要

1. 親子センターにおける親教育プログラムのテーマ

親子センターのスタッフが、親の利用状況や親が関心のあるテーマなどをふまえ、半年ごとにプログラムを決定する。そのプログラムは、妊娠・出産・産後のヨガや産褥体操、親子の出会いの場、子育てや教育に関する親のためのセミナーや講演などがあり、出産前から子どもが思春期になるまでを対象に幅広いテーマが扱われている。

2. 親子センターにおける親教育プログラムの構成

親子センターで実施される親教育プログラムは以下の3つから構成されていることがインタビューの内容から明らかになった。

1) ノンプログラム

親子センターが空いている時間は、親はいつでも自由に來ることができ、図書や抱っこ紐等の貸し出しも行われている。今回、インタビューを行った3つの親子センター全てで、この貸出事業が行われている。

2) 「敷居の低い」プログラム

子どもの年齢別に親子で遊ぶ場や、あるいは音楽や運動、自然、英語などのテーマ別に遊ぶ場等が設定されており、実施されるプログラムの中で一番多い。親子の出会いの場や遊びを中心とした内容であるため、親が気軽に参加できる「敷居の低い」プログラムとして設定されている。このプログラムでは、親同士での交流やスタッフと気軽に話ができる場であること、スタッフが親のモデルとなり、親が子どもとのかかわりや発達について気づける場であること、親にとって居心地が良く安心できる場所であることが重視され、室内の環境や親への言葉かけが配慮されている。プログラムを担当するのは、テーマに関係する専門分野の大学を卒業した人や、その分野の専門家である。多くの場合、自分自身が親であり、教育関係、助産師、心理カウンセラー等の職業に就いている人である。

3) 子育てに関するテーマについて学ぶプログラム

子どもの発達や子どもとのかかわり方等、子育てに関するテーマについて、親が話し合いながら学ぶものである。2)の「敷居の低い」プログラムでは、子どもと一緒に参加するものが多く、対象となる子どもの年齢は4歳までが多いのに対して、3)の子育てに関するテーマについて学ぶプログラムでは、子どもは参加せず親だけが参加するものが多く、乳幼児を持つ親を対象としたもの以外に、学童期以降の幅広い年齢の子どもを持つ親を対象とするものも多い。開催時間は18時以降の夜間が多く、週に1回程度行われている。

それぞれの親子センターでの具体例について述べる。まず、グラーツ親子センターでは、プログラムのテーマはイヤイヤ期、夜泣き、子どものけんかなどがある。親子センターに来ている親の様子や親との会話から、多くの親が関心をもっていると思われるテーマをスタッフが相談して決定する。開催時間は平日夜19時から21時の2時間というプログラムが多い。親は子どもを夫や祖父母に預けて参加している。

グライズドルフ親子センターでは、毎週水曜日の夜19時30分から21時30分に行われている。輪になって椅子に座り、専門的な知識のあるファシリテーターが話し合いを進める。一つのテーマについて親が質問をしたり、親同士がお互いの経験や考えを話したりしながら学ぶ場である。親だけでなく、幼稚園や学校の教師など、子どもや保護者とかかわる職業に就いている人、親教育に関心のある人も参加することが出来る。親は、子どもを夫（または妻）や祖父母に預けたり、仲の良い母親同士で交代して預けたりして参加する。グライズドルフ親子センターでは、夜という子どもがいない時間帯に開催する理由として、子ども無しでゆっくり話せること、子どもがいる前では話したくない内容もあることが挙げられた。例えば、わが子が友達をたたくことなどを親が心配している場合、子どもがいる場で話して子どもが恥ずかしい思いをするなど、子どもへの発達に良くないと思われることを避けるためである。プログラムの具体例としては、「3歳の子どもの友だちをよく叩いてしまう」という親の悩みに対して「子どもには子どもの理由が必ずある。別の方法でそれを伝えていくことが親の役割である」ことなどを、ファシリテーターの進行のもと親同士が話し合いながら学ぶ。他には、子ども同士のけんかへの親のかかわり方、携帯ゲームやスマートフォン、テレビなどの付き合い方、生活リズムについて、などもよくテーマになる。

南親子センターでは、講演形式と話し合いを中心としたセミナー形式の両方がある。平日18:30-21:00の1回2.5時間で、各回の間隔を1週間または数週間あけて2回から3回続けて行うプログラムが多い。親子センターでの普段の親との会話から、多くの親が参加したいと思われるテーマを中心に幅広い内容が扱われている。プログラムの1回あたりの参加人数は6人から15人程度である。母親だけでなく、父親、祖父母、幼稚園や学校の教師も参加することがある。セミナーでは、前半にテーマに関する講師からの話と親からの質問、セミナーの後半では話し合いが行われる。ティータイムもあり、話し合いの緊張感を減らす工夫をして親がリラックスできるような雰囲気づくりを試みている。セミナーでは、「親は我が子の一番の専門家である」という前提のもと、1回目のセミナーでは、親がそれぞれ経験や思い、考えを話しあい情報交換をする。この内容をもとに親が家庭で工夫できるか各自で試し、その様子について2回目のセミナーで再び話し合う。セミナーでは、親のやってみようという気持ちや、親が自信を持つこと、ストレスの解消になることを大事にしている。毎月第2水曜日には、母親が自由に話をする時間というプログラムを設けている。

以上のように、子育てに関するテーマについて学ぶプログラムに関してそれぞれの親子センターで共通していることは、夜に行われることが多い、子どもを預けて親だけが参加

することが多い、講師の話を聴くだけではなく親同士の対話を重視した方法である、ということが挙げられる。

特に、この子育てに関するテーマについて学ぶプログラムにおいては、どのように親同士の対話を進めていくかが重要になる。親に一方向的に知識や情報を伝えるのではなく、親の気持ちを尊重し、親同士がお互いに経験を話し合いながら、新しい情報を得て、自分も実践してみたい、工夫してみたいと思うような進め方が出来るファシリテーターが求められる。オーストリアでは、そのような親教育プログラムを行う専門家として、親教育者 ElternbildnerInnenの養成カリキュラム⁸⁾を家族青少年省が定めている。このカリキュラムでは、各州で実施されている成人教育としての親支援の方法や親の発達等が内容として扱われている。この養成講座は教育学や心理学を大学で専攻した人が受講することができ、資格をもつ親教育者として、子育てに関するテーマについて学ぶプログラムを担当することができる。

3. 親子センターにおける親教育プログラムの実践例

親教育プログラムの枠組みとその具体的な内容例を、各親子センターの2017年のプログラムの情報を基に記述する。

1) グラーツ親子センター

<敷居の低いプログラム>

①妊娠と出産 16プログラム

例)「週末コース」土曜日9:00-18:30と日曜9:00-13:00の1回ずつ(毎月1回開催)

「一日コース」土曜または日曜9:00-18:00(約1~2ヶ月に1回開催)

「二人目、三人目の赤ちゃんが産まれる」土曜(約4か月に1回開催)

「ヒプノバーシング」金曜18:00-20:30(約3か月に1回開催)

「妊娠中のヨガ」月曜19:30-21:00(約2~3か月に1回開催)

②ママの時間 4プログラム

例)「産褥体操」木曜10:30-11:30/17:00-18:00 5週又は6週連続シリーズ(約3か月に1回開催)

「赤ちゃんと一緒に産褥体操」木曜10:30-11:30/15:30-16:30

5週又は6週連続(約3か月に1回開催)

③出会いの場 6プログラム

例)「母乳育児の出会い」毎月第1、3木曜 9:30-12:00

「布おむつ・おむつなし育児の出会い」金曜(毎月1回開催)10:00-12:00

「0から4歳の乳幼児の出会い」毎週火曜 15:00-17:00

「パパと子どもの土曜日ランチ」毎月第2土曜 10:00-13:00

④赤ちゃんの時間 6プログラム

例)「ベビーマッサージ」金曜9:15-10:45(毎月約1回開催)

「ベビー指圧」水曜9：30-11：30（約2-3か月に1回開催）

「ベブリースイミング（3-12か月の乳児）」火曜10：00-11：00 8週連続
（約3か月に1回開催）

⑤大人対象プログラム 7プログラム

例)「音の響き～リラックスの夜～」日曜17：00-18：15（毎月約1回開催）

「予防接種ワークショップ」11月7日（火）19：00-21：30

⑥フィットネスとコミュニケーション 7プログラム

例)「骨盤体操」4月27日（木）20：00-21：00

「日常のヨガ」毎週水曜19：00-20：30

「暴力なしのコミュニケーション 情報編」9月15日（金）19：00-21：00

「暴力なしのコミュニケーション 実践編」金曜18：00-20：30（約2か月に1回開催）

「さあ、けんかの仕方を学びましょう」5月20日（土）10：00-18：00

⑦エミー・ピクラーの遊び部屋 2プログラム

例)「6か月から15か月の子ども対象」

「15か月から24か月の子ども対象」1か月に3日間連続で開催 10：30-11：45

⑧遊び～世界を発見 13プログラム

例)「創造遊びの部屋1から3歳の子どもと親」月曜15：00-17：00から9週連続

（約6か月に1回開催）

「1から2歳のプレイグループ 子どもと親対象」月曜13：00-14：30

（約4か月に1回開催）

「3歳からの遊びグループ 子どものみ対象」金曜8：30-12：00 12週連続

（約6か月に1回開催）

「音楽 6から18か月の赤ちゃん対象」

水曜15：30-16：15 12回連続／木曜9：30-10：15から10回連続

（約6か月に1回開催）

「音楽 1歳6か月から3歳の子ども対象」

水曜16：30-17：15 12回連続／木曜10：30-11：15 から10回連続

（約6か月に1回開催）

「音楽 3歳から6歳の子ども対象（親の参加なし）」水曜17：30-18：15 12回連続

（約6か月に1回開催）

「森のプレイグループ 2歳から4歳の子ども対象」水曜9：30-11：30 8回連続

（約3か月に1回）

<子育てに関するテーマについて学ぶプログラム>

①親対象セミナー 14プログラム

例)「きょうだい 愛と競争」3月21日（火）3週連続、10月5日（火）

2 週連続 19:00-21:00

「怒る、暴れる、反抗する-強い感情-どうする？」 4月26日(水) 11月8日(水)
19:00-21:00

「人生に強い子どもにする」10月2日(月) 19:00-21:00

「遊びの発達とおもちゃ」10月3日(火) 19:00-21:00

「性教育と子どもへの説明」4月20日(木) 11月9日(木) 19:00-21:00

「1歳と2歳の発達段階 発達心理学の視点から」5月12日(金) 11月17日(金)
9:30-11:30

②新しい教育学 講演シリーズ 4プログラム

例)「自由な学び」10月13日(金) 19:00-21:00

「エミー・ピクラー教育」5月12日(金) 19:00-21:00

「モンテッソーリ教育」11月17日(金) 19:00-21:00

「シュタイナー教育」2018年1月(日程未定)

2) グライドルフ親子センター

<敷居の低いプログラム>

①妊娠と出産 6プログラム

例)「妊婦体操」月曜18:00-19:00 6週連続(約2か月に1回)

「妊婦のためのヨガ」水曜19:00-21:00 7週連続(約3か月に1回)

「出産準備コース」土曜と日曜10:00-17:00(約2か月に1回)

②赤ちゃん 12プログラム

例)「赤ちゃんの出会い」毎週水曜10:30-12:00

「赤ちゃんと一緒に産褥体操」月曜16:45-17:45 8週連続(約3か月に一度開催)

「母乳育児の出会い」水曜14:00-15:30(毎月1回開催)

③1歳以上の子ども(親子グループ) 7プログラム

例)「1歳から3歳の子どもの出会いの場-火曜日」毎週火曜14:30-16:00

「1歳から3歳の子どもの出会いの場-木曜日」毎週木曜9:00-10:30

「音楽グループ」火曜10:35-11:25 9週または10週連続(約3か月に1回開催)

「親子体操1歳6か月から3歳まで」毎週水曜

1) 15:30-16:30 2) 16:30-17:30 3) 17:30-18:30

④2歳6か月から18歳までの子ども 13グループ

例)「プレイグループ 2歳6か月から4歳」月曜8:30-11:00/火曜14:30-17:00
/水曜8:30-11:00/木曜8:30-11:00/金曜8:30-11:00 9回

(約3から4か月に1回開催)

「親子体操2歳から6歳まで」火曜16:15-17:15/17:15-18:15 9回連続

(約3か月に1回開催)

「英語と一緒に楽しもう 4歳から8歳まで」月曜16:15-17:15 9回連続
(約3か月に1回開催)

⑤父親対象 5プログラム

例)「パパと子どもの抱っこ、読み聞かせ、遊び」日曜9:00-10:30(毎月1回開催)

「パパと子どもの朝食」土曜9:00-19:30(毎月1回開催)

「パパが一番!パパのための料理コース」金曜18:30-21:30(約3か月に1回開催)

「パパと子どもの遠足」10月14日土曜 8:30から

「パパのネットワーク出会い」金曜20:00-22:00(毎月1回開催)

⑥世代の出会いの場:家族の時間 8プログラム

例)「子どもと料理2歳から5歳までの子どもと親または祖父母」土曜日9:30-12:30
(毎月1回開催)

「子ども一本一想像 2歳から6歳までの子どもと親または祖父母」12月16日
(土)9:30-11:30

⑦フィットネス、ウエルネスと健康 6プログラム

例)「女性のためのヨガ」木曜19:00-21:00 11週連続(約4か月に1回開催)

「子どもの救急講座」土曜9:00-12:00と13:00-16:00(毎月1回開催)

<子育てに関するテーマについて学ぶプログラム>

①親対象のセミナーと講演/親教育 17プログラム

例)「今日何を料理しよう?」10月11日(水)19:30-21:30

「きょうだい 愛情と競争の間で」10月18日(水)19:30-21:30

「子どもは『従う』必要がある?」11月29日(水)19:30-21:30

「赤ちゃんが産まれた-母親の幸せはどこに?」12月6日(水)19:30-21:30

「教育手段としてのご褒美と罰」1月10日(水)19:30-21:30

「『私の!』けんかと分け合うこと」1月17日(水)19:30-21:30

「あと何回あなた(子ども・・・筆者注)に言わないといけないの?」2月7日
(水)19:30-21:30

3)南親子センター

<敷居の低いプログラム>

①出会いの場 9プログラム

例)「赤ちゃん・乳児の出会い」毎週火曜16:00-17:30と 毎週木曜9:30-11:00

「ベビーカフェ(0-1歳)」毎週火曜9:30-11:00

「一時保育」月曜・金曜 8:45-12:00

②妊娠・出産 12プログラム

例)「世界母乳育児週間 一緒に朝食を」10月6日 9:30-

「夫婦のための出産準備」 1月21日／4月1日／6月10日／9月9日／11月25日
15：00-19：00

「妊娠中・授乳中の栄養ワークショップ」 2月4日／10月7日 9：00- 約3時間

「母乳育児 良い始まりのために」 11月31日 18：00-

「布おむつワークショップ」 希望があればいつでも開催 約2時間

「抱っこ紐ワークショップ」 3月18日／10月14日 3時間

③赤ちゃんコース 6プログラム

例)「ベビーマッサージ」(約1ヶ月に1回)

「ベビーレッドウィーニング(赤ちゃん主導の離乳食)ワークショップ」 5月29日
／9月18日16：00-17：30

「親と赤ちゃんの音楽グループ」 1月12日-2月9日 5回連続(約2か月に1回
開催) 15：00-

「プレイグループ6-12か月」 1月20日4回連続(約3か月ごとに開催) 9：00-

④1歳から3歳の子どもコース 5プログラム

例)「子どもだけのプレイグループ(親の参加なし)」毎週月曜と金曜9：00-12：00

「親子一緒にプレイグループ」1月11日から4週連続(毎月1回開催)

10：00-11：30

⑤3歳から12歳の子どもコース 13プログラム

例)「子どもヨガ(5-10歳)」3月8日から16：15-17：15 全15回

「工作グループ(4-8歳 保護者なし)」6月1日、8日、22日、29日

15：30-17：00

「絵本の読み聞かせ」1月26日、3月2日、4月20日、6月8日、9月14日、
11月9日、12月7日 16：00-

「クリスマスの工作(4-8歳)」12月4日 15：30-17：30

⑥健康、栄養、体操 10プログラム

例)「料理ワークショップ」4月28日 16：00-19：00

「栄養ワークショップ」1-3歳の食事 土曜 3月4日、5月20日、7月22日、
11月4日 9：00-11：00

「カンガトレーニング(赤ちゃんを抱っこして行うトレーニング)」カンガ1

毎週木曜9：15-10：15 カンガ2 毎週木曜10：30-11：30

⑦世代間コース 6プログラム

例)「乳幼児と親、祖父母、シニア世代カフェ」毎週火曜16：00-17：30

「どのくらい多くの歌やダンスを知っていると思いますか？」2月14日15：00-

<子育てに関するテーマについて学ぶプログラム>

①講演(午前・午後) 3プログラム

例)「乳幼児のための自然の救急箱」4月22日9:30-15:00

②講演(夜) 23プログラム

例)「風邪をひいたときのホメオパシー」1月16日19:00-

「我が子が小学校に行く」2月6日19:00-

「ワークライフバランス」家族の日常におけるリラックスの島」2月13日19:00-

「性教育と説明 子どもは何を知っておくべき?」4月24日19:00-

「ライオンと羊-いじめ」5月22日19:00-

「きょうだい 愛情と競争の間で」2月27日19:00-

③親教育セミナー 11プログラム

例)「私のための時間-女性のトークタイム」毎月第2水曜 19:00-21:00

「子どもは自分自身の『私』を発見する-イヤイヤ期が始まったら」10月19日、
11月9日、11月23日 3回連続 18:30-

「境界線を引く-安全としての境界線」3月2日、16日、30日 3回連続 18:30-

「どのくらいの教育をわが子は必要とするか」4月13日、5月4日、5月18日
3回連続 18:30-

「子どもと一緒に暴力のないコミュニケーション」3月31日15:00-19:00と4月
1日9:00-17:00

④相談 子育て・母乳育児・抱っこの相談

(※曜日や終了時刻が示されていないプログラムはそのまま曜日なし、また開始時刻のみ記載している)

以上のように親子センターの親教育プログラム例を見てみると、まず「敷居の低い」プログラムが充実していることがみとれる。出産に向けての準備、母乳育児、おむつや抱っこに関する内容等、妊娠中に母親が、または夫婦で、そして出産後に赤ちゃんと一緒に参加することのできるプログラムが多い。特に子どもが産まれる前から、病院や助産院以外で出産や出産後の子育てについて情報を得られることは、親子センターが親に必要とされる場となっている理由の一つである。また、出産後も、母乳や抱っこ、夜泣き、赤ちゃんとの生活や遊び等について気軽にスタッフや他の親との情報交換が出来る場合は、多くの子育て中の親にとって重要な場であるだろう。出産前からも、出産後も、親同士での交流が出来る機会が多くあることは、親の孤立を防ぎ、子育てや遊び、食事など様々な情報を得られるという点から重要な意味を持っていると考えられる。

次に、子育てに関するテーマについて学ぶプログラムが、親の興味関心に基づく多様なテーマについて行われていることが分かる。子どもが大きくなるにつれて、親はさらに多くの課題に直面する。例えば、子どもの自己主張とのかかわり方、生活リズム、きょうだいの子育て、子育てと仕事の両立などがある。子どもが泣き止まなかったり、怒ったり、暴れたり、乱暴をしたりすると、親は自分の子育てが悪かったのではないかと自分自身を

責めてしまったり、逆に子どもが悪い、わがままだと子どもを厳しくしつけなくてはならないと思ったりすることも多いだろう。このようなとき、親が子育てに関するテーマについて学ぶプログラムに参加することで、親が自分の子育てを振り返り、そこで自信を得て、また子育てに前向きに向かうことができるのではないだろうか。

親教育プログラムにおける3つの構成は、「敷居の低い」プログラムの充実によって親子センターが親にとって身近な場所となり、さらに親が子育てに関するテーマについて学ぶプログラムに参加しやすくなるという意義があると考えられる。

しかし、親教育プログラムに参加した親が前向きな気持ちで子育てに向き合うようになるためには、ただ、親同士で交流する場所、子育てについて学ぶ場所があるだけでは難しいと考えられる。このような場所が、親にとって居心地が良いと感じられ、また参加したい、さらに子育てについて学びたいと思うような場となるために、親子センターではどのような工夫が行われているのだろうか。そこで、次に親教育の理念と親子センターでの具体的な実践やスタッフの親支援に対する考え方について述べる。

V 親教育の理念と親子センターでの実践

1. 親教育の理念を実践する親支援

3つの親子センターにおいて共通して、親教育は、親に教える場ではなく、「親が自身の力に気づき、親を勇気付けるものである」という理念を実践する場として捉えられ、親にとって居心地の良さの重要性が認識されていた。グラーツ親子センターでは、次のように語られた。

(親教育とは) 親を力づけ、援助することです。助言する場ではなく、親を彼らの能力を持って、力づけることです。

親の心が良い状態であれば、子どももうまく育っていく。これが親教育の理想です。親はそれぞれ違います。働きたい人もいれば、家で育てたい人もいます。そう、皆、違うのです。もしそれぞれの人が満足していて、関係性が良かったら、子どもも良く育ちます！

親が交流できる場、居心地のいい場がどれだけ重要か伝えていく。問題が起こる前の予防的な場です。どの親子センターもそうです。親教育の理想や概念は同じです。どの親子センターでも、ほとんど皆同じプログラムを持っています。出産準備コース、親子グループ、子育てのテーマなど、基本的には同じです。(グラーツ親子センター)

さらに、親教育の目的は親が主体的に子どもを育てることであり、そのために親教育では親の主体性を尊重することと、親を力づけることが重要であることが次のように語られた。

(親が) 主体的に子どもを育てること。(親が) 学ぶということではないのです。親が、確かさを得たり、自分の感情を信じたりするための援助です。赤ちゃんとの生活は、た

くさんの新しいことがあります。毎日、赤ちゃんとずっと二人きりは良くありません。他の親と話したり、「今日は子どもが泣いてぜんぜん寝られなかった～」と言ったり、お互いに交流し助け合える方がいい。学ぶということではない、親を力づけることです。
(グラーツ親子センター)

グライسدルフ親子センターと南親子センターでも、親の居心地の良さを大切にしたいという内容が次のように語られた。

親が(虐待のような)悪いケースが起こらないようにする場が親子センターです。家にいるだけでなく、出てきてほしい。ここはサインしなくてもいいし、テストを受けるわけではないし、友達の家にいるようにリラックスが出来るような場です。(グライسدルフ親子センター)

ずっと家にいるとストレスがたまることもあります。親のやってみようという気持ちやストレスの解消、親が自信をもって子育てをすることを大事にしています。子どもとどうやって遊んだらよいかを学ぶことも必要。親教育プログラムでは3回目になると既に親同士で仲良くなっています。慣れない間は、スタッフがそばに寄り添い、話をしたり、親同士の仲介をしたりします。(南親子センター)

以上のように、親の思いを尊重し、親がリラックスできる場、親を勇気づける場であることが重要であることがどの親子センターでも語られた。

2. 親の成長を促す親教育～親の学びを意識した親へのかかわり方

「敷居の低い」プログラムでも子育てについて学ぶプログラム、親子センター全体で、親の学びを意識したかかわり方が行われているということも分かった。そのために、親子センターでは、親にとって居心地の良い場になるように家族や友達のように話して交流することや、スタッフが子育てのモデルとしての存在であることを意識していることが挙げられた。グライسدルフ親子センターでは次のように語られた。

家族や友達のようにお互いに話し、交流することや、スタッフが見本となり子どもとの関わり方を示すことがあります。今日の音楽遊びのときのように、(子どもに) ゆっくり丁寧に(おもちゃを)渡して「ありがとう」「置いてきて」と伝えます。怒るのではなく、ゆっくり優しく話す子どもは分かります。小さい子どもにはゆっくり話すことが重要です。

親はたいい速く話すので、子どもにとって理解するのが難しく、誤解が起こってしまいます。そして親は子どもを怒ることになります。子どもには一つの文章で「これを

棚に置いて」というのです。

そして、子どもの目を見ることです。子どもの目を見ずに話すのとでは、大きな違いがあります。(グライسدルフ親子センター)

さらに、「敷居の低い」プログラムでは、親から質問があったときに答える形で、子育てについて伝えることが多い。親の質問や相談に答えることの例として、プレイグループで子どもの「イヤイヤ期」について親から質問された場合について、次のように語られた。

もし一人、二人のお母さんから質問されたら答えます。もし、多くのお母さんが同じような質問があると気づいたら、皆の前で話します。例えば、今日は、この年齢では叫ぶことが多い。まだうまく話せないけど強い意志を持っています。多くの親が同じ質問があると気づいたら、少し全体に対し話をします。今日は子どもの発達「イヤイヤ期」について、この年齢では普通で、大丈夫、落ち着いていればよい、親は(子育てを)間違えたわけではない、これは子どもの発達として通る道。子どもが床の上で大泣きしたり暴れたりすると、多くの親は私が間違えたんじゃないかと思います。子どもが、床の上で寝転がって暴れるのではなく、話して伝えるということを知る必要があります。でも、それは1日ですぐ出来るようになることではありません。ほとんどの親はそれを知らないので、子どもを怒ってしまいますよね。(グライسدルフ親子センター)

また、グライسدルフ親子センターでは、親の成長を促す親教育による地域での親の子育ての変化について、次のような期待が語られた。

ここに来ない親もいるけれど、ここに来た親は他の親にどうだったか話します。また、ここにきている親が公園などで子どもと関わっている姿をみて、ここに来ていない親がその様子から子どもとのかかわり方を学ぶこともあります。30年前、親が子どもをたたくことは普通だと思われていました。今は、子どもをたたくことがあれば、周りの人はおかしいと思います。少しずつ皆が変わっていきます。ここに来ない親も少しずつ変わっていきます。(グライسدルフ親子センター)

このようなかかわりを続けていくことで、暴力のない子育てを広めていき、少しずつ子育てや子どもへのかかわり方を変えていくということ、それが虐待防止につながっていくことを目指す親子センターの思いが見られた。

今回の調査で明らかになった、親教育は「親が自身の力に気づき、親を勇気付けるものである」という考え方、プログラムの構成や内容はどの親子センターでも共通していた。その背景として、親教育の理念やプログラムの内容や実践状況等について情報交換をするネットワークが、オーストリア全体とシュタイアーマルク州とそれぞれにあり、年に1～2回情報交換会が

実施されているということや、資格を持った親教育者の養成も、重要な要因であると考えられる。

VI 考察

オーストリアの親子センターでは、妊娠中から思春期の子どもを持つ親までを対象に、幅広い内容の親教育プログラムが用意されていた。親教育プログラムは、①ノンプログラム②「敷居の低い」プログラム③子育てに関するテーマについて学ぶプログラムの3つから構成されており、親教育が親にとって身近で参加しやすいものとなっていた。また、親にとって家族や友達のような居心地の良い場所であることと、親が子育てについて主体的に学び、親が勇気づけられるようなかわりが意識されていることが明らかになった。このような親子センターの親教育プログラムによって、親は安心できる場で、他の親子と交流したり子育てについて学ぶことができたりすることができ、親自身が前向きな気持ちになることができる。子育てに関する情報を得るだけでは、親はもっとこうしなくては、もっと頑張らなくては、と自分自身を責める可能性もある。しかし、今回調査をした親子センターでは、親の力を信じ、親の主体性を尊重してかかわること、親が責められていると感じるのではなく、勇気づけられることが大切にされていた。ここに、親の成長を促す親教育のあり方についての手がかりがあると考えられる。

親教育は、親や地域の人に暴力によらない子育てを少しずつ広め、伝えていくという重要な役割を果たしている。理想の親としてのあり方を伝えられるのではなく、既に持っている親としての力を認められ、勇気づけられ、親が自分の力に気づくような親支援が重要である。

また、親教育プログラム実施機関としての認定制度や、親教育者の養成講座等によって親教育の質が保障されていることも注目される。どのセンターにおいても、親教育は「親が自身の力に気づき、親を勇気付けるものである」という視点に貫かれていた。

今後の課題は、次の3点である。第1に、親子センターの実践についてその具体的な方法を明らかにすることである、今回は、親教育プログラムの概要が明らかになったが、実際にどのような方法で行われているのか、より具体的な実践方法を調査したい。第2に、親教育者の養成に関する内容と方法について明らかにすることである。オーストリアで親教育の質が保障されている背景には親教育者の養成があることが明らかになった。そこで親教育者の養成がどのように実施されているのか明らかにしたい。第3に、日本の親支援の現状について調査し、オーストリアの親教育の視点を活かしたプログラムの日本での実施可能性について検討することである。

謝辞

本研究はJSPS科研費JP15K16547の助成を受けたものです。

引用・参考文献

- 1) 以上、中山あおい「オーストリアにおける「子ども虐待防止」の取り組み－2011年9月と2013年3月の訪問調査から－」『大阪教育大学国際センター年報』第19号、2014年、

21-28ページ、参照。

- 2) オーストリアの首都ウィーンでは1982年に初めて親子センターギルゲガッセEltern-Kind-Zentrum Gilgegasse (現在は親子センターウィーンEltern-Kind-Zentrum Wien) が、ウィーンに次ぐオーストリア第二の都市、シュタイアーマルク州の州都グラーツでは1988年に初めて親子センターグラーツが設立されている。
- 3) 本研究では、ドイツ語Elternbildungの訳として親教育を用いているが、これは親に正しい子育てや親としてのあり方を「教える」ことではなく、子育てを通して親が「自ら学び成長する」ことを意味する(蘆田智絵「オーストリアの親教育に関する一考察-シュタイアーマルク州の事例より-」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第1部第61号2012年、35-40頁、参照)。
- 4) オーストリア労働、家族、青少年省による親教育ウェブサイト「親教育の助成」
<https://www.eltern-bildung.at/hilfreiche-links/foerderungen/> 参照。
- 5) 蘆田、前掲論文、参照。
- 6) シュタイアーマルク州は、人口1,246,395人、土地面積16.399,34km² (2020年1月1日時点)であり、シュタイアーマルク州の州都グラーツは、オーストリアの首都ウィーンに次ぐ人口第2の都市である
(オーストリア統計局ウェブサイト http://www.statistik.at/web_de/klassifikationen/regionale_gliederungen/bundeslaender/index.html、参照)。
- 7) シュタイアーマルク州親教育ネットワークに登録されている親子センターは2020年1月時点で、以下の10か所である。
 1. Eltern-Kind-Zentrum Aichfeld
 2. Eltern-Kind-Zentrum Deutschlandsberg
 3. Eltern-Kind-Zentrum Fürstenfeld
 4. Eltern-Kind-Zentrum Gleisdorf
 5. Eltern-Kind-Zentrum Graz
 6. Eltern-Kind-Zentrum Mürztal
 7. Eltern-Kind-Zentrum Radkersburg
 8. Eltern-Kind-Zentrum Süd
 9. Eltern-Kind-Zentrum Voitsberg
 10. Eltern-Kind-Zentrum Weizシュタイアーマルク州ウェブサイト「2020年時点での親教育ネットワークZWEI UND MEHR 実施施設」(https://www.zweiundmehr.steiermark.at/cms/dokumente/12796850_159924734/c2306427/%C3%9Cbersicht_Anbieter_innen.pdf) 参照。
- 8) オーストリア労働、家族、青少年省による親教育ウェブサイト「親教育者の養成教育カリキュラム」<https://www.eltern-bildung.at/wp-content/uploads/2018/01/Curriculum.pdf>、参照。(以上のすべてのURLは2021年1月現在のもの)